

学校法人明治東洋医学院

第4期中期的な計画 (令和7年度～令和11年度)

中長期ビジョン (学部学科)

➤ 鍼灸学部 鍼灸学科

学科長 伊藤 和憲

鍼灸学部では、「養生」による新たなブランディングを通して、既存の医療やスポーツ関連分野以外の志願者の開拓を図る。ブランドの学内外への周知と併せて3ポリシーとカリキュラム改訂を行い、学生の自己実現を軸とした学生主体の学部運営に転換する。養生分野における研究活動と実践強化に加え、HP更新やメディアリストを活用した積極的な告知を行うことで学外への認知を広め、APに沿った志願者の増加を図る。また、農学系新学部開設に併せ、ブランディングの再設定と学生のニーズ調査を実施し、それを受けた形で3ポリシーとカリキュラムの見直しを検討する。これらの活動を含め、特徴ある学部運営によって志願者の増加を図る。

➤ 保健医療学部 柔道整復学科

学科長 宮坂 卓治

入学志願者の増加

志願者数が定員の1.3倍以上を目指す。潜在的なマーケット(スポーツに興味がある中高生等)を開拓するため中体連や高体連などの学外救護活動に積極的に参加介入する。また、高校生だけでなく、他医療資格取得者及び取得見込者もターゲットとし、魅力ある学科であることを積極的にアピールできるような広報を行う。

教育ビジョン

アスリートサポートと高齢者ヘルスサポートができる柔道整復師の育成。これまで大学としてトップアスリートの育成を積極的に行ってきたが、学生のスポーツを学生が支える体制を強化し、アスリートの思考や技術、競技特性等が理解できる柔道整復師の育成を目指す。さらに地域のスポーツ愛好家(小学生～社会人)、運動が必要な高齢者、およびそれらを支える指導者も巻き込み、地域との連携を活性化する。

国家試験合格率の向上と卒業後の進路拡大

全国合格率の平均を5ポイント上回る合格率を目指す。より国家試験を見据えた教育内容に変更するとともに、多様な進路のニーズに答えられるよう、教育プログラムの改定を図る。

➤ 看護学部 看護学科

学科長 糸井啓純

高度な専門性をもつ看護師、保健師、助産師を育成するとともに、看護学における各領域の研究を発展

推進し、これらが地域に密着した医療となり、地域貢献に繋がることをエンドポイントに考える。それには、各領域の連携、多職種との連携、附属病院・実習施設との連携の一層の強化が必要になる。

1. DX 導入に基づく学生教育の発展強化
2. 学生教育の基本的姿勢に対する改善、現状の教育システムの再評価
3. その改革による学生満足度の向上

➤保健医療学部 救急救命学科

学科長 上久保 敦

○総合目標

「教育、研究、地域連携の三本の柱を通じて、高度な専門性と多職種連携力を持つ救急救命士を育成し、防災・災害対策の研究を推進し、中山間地域の特性を活かした地域貢献を行う」

○三本の柱の内容

1. 教育
 - ・目標：医療人としての高い専門性と多職種との連携力を培う教育を推進する。
2. 研究
 - ・目標：防災や災害対策に関する研究を強化し、その成果を地域社会に還元する。
3. 地域連携
 - ・目標：中山間地域に位置する大学の強みを活かし、過疎地域ならではの地域連携を推進する。

この「教育、研究、地域連携」の三本の柱を通じて5ヵ年計画に表す保健医療学部救急救命学科が持つ使命とビジョンを実現するための道筋を示しています。高度な専門性と多職種連携力を持つ救急救命士の育成、防災・災害対策の研究推進、中山間地域の特性を活かした地域貢献を行うことで、地域社会と国際社会に貢献できる人材を育成する計画としています。

中長期ビジョン（大学院）

➤鍼灸学研究科

研究科長 伊藤 和憲

大学院鍼灸学研究科では、「養生」ブランディングの周知とともに研究テーマの整理を行う。同時に各教員の研究力と指導力の向上を図り、学生の受け入れを強化する。学外との研究強化を進め、大学院生を参加させることで研究費の獲得を含めた学外へのアピールを行う。ブランディング浸透の進捗を確認しつつ3ポリシーの見直しと科目、研究テーマの更新を行い、シラバスや募集要項にも反映させる。同時に「養生」分野の学内認定資格のについても検討を進める。最終的に教育職や研究職への人材を派遣し、鍼灸、健康分野における指導的人材として機能させていく。最終年度には大学院生への満足度調査を行うとともに、次代に向けてのニーズ調査を行う。

➤ 保健医療学研究科 保健学専攻

研究科長 桂 敏樹

大学院保健医療学研究科保健学専攻では、令和6年度に大学院修士課程学生3名が初めて修了する予定である。毎年志願者はあるものの定員は充足していない。博士課程設置に伴い定員を削減したので、今後定員確保状況の推移を観察する必要がある。一方、令和6年度に新設された博士後期課程では初年度（令和6年度）受験者は定員以上確保できたものの辞退者があったため現状では定員は充足していない。令和8年度に最初の大学院生が修了する予定である。

今後志願者を増やし定員を充足するために、大学広報（HP、大学便り等）や大学院説明会開催による魅力の発信、同窓会を通じた大学院情報の発信や研究内容の伝達、大学院生の研究成果の学会発表と論文投稿の情報発信、HPによる研究情報の発信等を積極的に行うことが肝要である。大学院生の研究の質は、抄読会、報告会による研究計画を洗練、精緻化し、倫理審査の充実によって修士論文、博士論文の内容および方法を精査改善する。論文作成後は、関連する専門誌に論文を投稿・掲載することを可能な限り義務化し、質の担保と研究成果の社会還元を保証する。

教育では保健学専攻のDPに準じて引き続き講義内容を精選し、DPに明示した研究成果の実装に関連する講義科目の履修を学生に教育的に指導、推奨するだけでなく、研究成果の実装も視野に修了生の動向を観察する。他方、教員には研究日設定等により自律的に研究時間を確保し、研究実績の蓄積や研究遂行力の涵養に繋がる取り組みを実施すると共に、外部資金の獲得、研究成果の蓄積（論文掲載、学会発表等）、学位取得の推奨と取得教員数の確保、研究備品の整備等を増強し、博士後期課程において研究を実施指導できる研究環境の整備と研究指導教員の定着を図る。

これらの戦略によって、本学がこれまでに多数輩出した卒業生のうち社会で活躍する看護職から卓越した看護学教育研究者や高度な臨床実践家をリスクリングするために学部と大学院が連携協働する大学院看護学研究科（D・M）の同時設置を実現する。このビジョンは、高度に細分化された看護学の各種領域を専門とする、優れた看護学教育研究者を招聘、また養成でき、修了生に社会に飛翔する機会と活躍する場を新たに提供し、本学看護学部の教育と研究の両立における脆弱な基盤を堅固にする。更に、本来大学看護学部のあるべき姿として大学・看護学部と大学院・看護学研究科の間に役割と機能の連動を構築することができれば、大学院設置が学部教育と連動し教育と研究の両立と充実が実現できることから、在校生、卒業生への恩恵も大きく、看護学部の魅力の助長にも繋がる。従って、これらの中長期ビジョンの実現に向けて計画的に取り組む。

➤ 保健医療学研究科 柔道整復学専攻

専攻長 宮坂 卓治

アスリートサポート技術の研究を基に、一般市民、特に高齢者の体力レベルや嗜好にそった正しいスポーツ知識やトレーニング方法および柔道整復学的（医科学的）なサポートの確立を目指す。また本大学院ならではの独自色のある研究の推進を図る。

多様な学生の確保による収容定員の充足。教育内容の充実と有効な広報活動の展開により、グローバル社会における高度専門職業人・研究者・教育者を目指す人材を、学内だけでなく他大学や専門学校等からも確保する。また、柔道整復師以外の多彩な能力及び資質を備えた人材も確保する。さらに高度専門職業人を育成するため、教育体系（長期履修制度の積極的活用、夜間・休日の授業、集中講義等）や教育内容の充実を図る。

中長期ビジョン（事務局）

➤ 大学 教務部

教務部長 福田文彦

・育成する人材

「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能を担える人材養成」を目標に、多様な学力層の学生に対して、定期的調査や学修状況把握、教職員や臨床心理士による面談を通じて、認知心理学的視点に基づいたきめ細やかなサポート体制を構築する。これにより、自律的な学修意欲と社会・地域貢献の意識を併せ持つ人材を育成する。

・学部／学科の改組転換

令和 8 年から鍼灸学科、柔道整復学科、看護学科、救急救命学科において、人や地域の健康に貢献できる人材育成のための学科横断プログラム(4 単位)を導入し、新カリキュラムを開始する。本カリキュラムでは、学年制から単位制への移行を含め、学生の主体的な学びを促進する。また、鍼灸学科、柔道整復学科では、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー資格取得コースを併設し、競技・ユニバーサルスポーツの現場で活躍できる人材育成を強化する。

学修支援センター機能を充実させることにより多様な学力層の学生に対する支援を強化する。

・教育の質／教員の質

教育の質向上を目指し、学修成果の可視化システム(アセスメント)を導入し、教員の教育活動の見える化(ティーチング・ポートフォリオ)を推進する。目標設定を明確化し、学科や部署で PDCA サイクルを回しながら、質の高い教育を推進する。また、4 学期制やディプロマサプリメントの導入、オンライン学修の充実など、多様な学修機会を提供することで、学生の主体的な学びを支援する。さらに、教育データを一元管理し、データに基づいた教育改革(教学 IR・教育の DX 化)を進めることで、選ばれる大学を目指す。

・高大接続／入試制度

高大接続・連携を強化するため、指定校入試制度の見直しを行い、連携校制度を設立し、高校・大学・社会が連携する新たな入試制度を検討する。また、アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生が入学しやすい入試制度を整備する。

・目標数値

退学率は、令和 11 年度までに 2.0%以下に抑制し、「進路変更」や「学修意欲低下」による退学を 1.0%

以下にすることを目標とする。

国家試験の合格率は、4学科において100%を目標とする。

卒業時満足度調査は、令和11年度までに「地元・地域との交流体制は充実していた」「社会人になるための基礎力を身につけることができた」「全体として大学生活の満足度は高い」の肯定的回答を80%、90%、90%以上にすることを目標とする。

➤ 大学 学生部

学生部長 小川 豊清

1. 多様な学生への支援体制の整備

近年、低学力、精神的にも脆弱である学生が増える傾向にあり、臨床心理士(こころの相談室)、学生支援センター、アドバイザー、教務課、学生課の連携による支援が必要である。常にアドバイザーミーティングを中心に学修面、生活面を含めた情報共有を行い、支援体制を確立させる。

配慮の必要な学生には学生支援委員会の了承を得て、学科、事務局との連携により個別の配慮計画を策定し、合理的配慮を提供する。併せて、家庭環境に問題を抱える学生の修学には日本学生支援機構の奨学金による経済的支援が必須であるため、支援継続の条件となる学修成績の維持には、教務課、学生課、アドバイザーとの連携による定期的な面談、見守りが必要であるとする。

教職協働による取り組みにより令和5年度4学科の平均は3.26%であるが、令和6年度は3.0%以下、令和11年度は2.0%以下を目標とする。また、退学理由による詳細な分析は行われていないが、「体調不良」「家庭の事情」以外の「進路変更」「学修意欲低下」による退学率を令和11年度は1.0%以下を目標とする。

2. キャリア支援

- ・ 国家資格取得への支援として公務員試験対策講座を実施するとともに、個々の学生のニーズに応じたキャリア支援の充実を図り、キャリア形成の選択肢が広がるよう支援を行う。
- ・ 就職支援関連情報の取得率向上と、データの利活用を行う。
- ・ 就職先開拓を行うとともに就職率100%の維持に努める。
- ・ 在学中に身につけた学力や資質・能力及び建学の精神・教学の理念に基づく人材像に照らして、卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証するため、卒業生対象の「キャリア教育に関するアンケート調査」を実施しその利活用に努める。
- ・ 有為な人材を輩出すべく教育改善のための意見聴取の機会として就職先施設を対象とした「企業ニーズ調査・大学教育の成果に関するアンケート調査」を実施すると共に、調査内容の利活用に努める。

3. 課外活動への支援(授業以外の教育)

授業以外の時間活用による学生の育成を目的として下記の内容を実施する。

・ クラブ活動の支援

クラブ活動により認知的・社会的能力を身につけることは、クラブ学生にとって重要である。クラブ活動による習得すべき内容をディプリマポリシーとして明確にする。

・ SA制度、TA制度、オープンキャンパススタッフなどへの支援

SAやTA、オープンキャンパススタッフなどの体験は、認知的・社会的能力を身につける。SAや

TA、オープンキャンパススタッフなどの体験による習得すべき内容をディプロマポリシーとして明確にする。

・学生を参画させる学生委員会の確立

学生の意見を・要望を汲み上げる機会としての学生支援委員会から学生を委員の構成員として、教育や大学運営の改善・向上につなげるために、意思決定に参画することのできる学生支援委員会として整備する。

・学生の集うスペースの整備

大学が学修のみでなく、楽しいコミュニケーションの場であることを感じるためにも自習室としての活用だけでなく、パブリックスペースとしての「学生の集う居場所づくり」を教育振興会と連携し、整備を行う。学生の誰もが自由に利用でき、学科、学年を超えた交流の場であり、快適な癒しの空間を提供することを目的とする。大学付近には商業施設も少ないため、カフェスペースとしての役割も果たしたい。

4. 大学同窓会の活性化

卒業生名簿管理システムを導入し、同窓会員の適正な管理を行い、各同窓会の活動を支援する。また、大学同窓会および各同窓会のホームページを一本化し、イベントや事業報告の情報を卒業生に情報発信することで、各同窓会・大学と卒業生の絆をより強固にし、活動・交流の活性化を図る。同窓会の連携により、志願者確保、就職活動に繋げていく。

➤ 大学 広報戦略室

室長 安田 賢司

1. 広報戦略（中期計画）の策定

(1) 広報活動の推進と見直し

- ・全体として本学の特徴・強みを生かした広報の展開
- ・3学部4学科間の全学科連携

医療系大学（病院を含む）のチーム医療として一貫した独自のイメージ作りとしてとらえ、学部広報、イベント告知を行う。

- ・戦略転換のポイントはDX（デジタル変革）戦略で「志望度」を上げる。
- ・専願戦略として総合型選抜で入学率の高い志願者を確保する。
- ・わかりやすく受けやすい選抜内容をPRする。
- ・高大連携による指定校推薦枠の拡充及び出願基準の改善
- ・名簿獲得に強い広報媒体への投資、WEB・SNS（特にスマホ中心）を活用したHPへの誘導強化
- ・低年次接触（高1.2年生）の強化＝（本学への興味、関心を抱かせる広報）
- ・「メディカルアスレティックトレーナー（MAT）認定資格制度」広報の推進
- ・オープンキャンパス動員対策の広報強化

(2) 農学系新学部の設置計画に伴う段階的広報の強化

2. トップアスリートの育成と医療系国家資格取得の文武両道を目指す「スポーツ振興プロジェクト」のさらなる推進。

- (1) スポーツ振興による大学ブランド力の向上、構築
 - ・スカラシップ制度の検証とさらなる見直し、再度検証
 - ・強化指定クラブによる大学の認知度向上
 - ・強化指定クラブ強化支援体制（人的・施設面）の充実
- (2) 大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業の推進。
地域貢献として本学を拠点としたスポーツ・運動基盤の「総合型スポーツクラブ」設立プロジェクトの立ち上げ。〔仮称：明治国際医療大学キッズアスレチッククラブ〕

前回の認証評価（参考意見）への対応

（学生支援関連）

- ・学生のけがや病気への対応は附属病院が担っているが、学校保健安全法第7条を踏まえた健康相談などの機能を有した施設の充実が望まれる。

別紙のとおり

（人事関連）

- ・SD活動を統括する部署を定めるなど、SD活動を全学的に実施していくための体制を整備することが望まれる。

本部事務局人事課においてSD活動を統括し、外部講師による講習への参加や、オンライン講習の活用を積極的に行い、教職員の資質を向上させるSD活動を実施していく。

保健室

保健室では、健康で充実した学生生活を送れるよう相談等の支援をします。
体調不良等の時は、保健室でも応急手当を行いますが、受診が必要な場合は、診療時間内であれば、附属病院への受診依頼をおこないます。

・利用方法

学生支援課へ連絡(6号館学生受付) 0771-72-1183

・場所

明治国際医療大学 附属鍼灸センター1階

・開室日時

月～金 9:00-16:00(土日祝日は閉室)
状況により、変更になる可能性があります。



学生の体調不良時等の対応フロー

